

「四国横断自動車道 吉野川渡河部の環境保全に関する検討会」第4回環境部会の市民発表等について

(1) 日時：平成26年12月15日（月曜日）13時00分～17時30分（主催：NEXCO西日本）

(2) 場所：アスティとくしま1階第2会議室〔住所 徳島市山城町東浜傍1番地1〕

(3) 主な議題

1) 基調講演「東アジア・オーストラリア地域におけるシギ・チドリ類」
～認定NPO法人バードリサーチ 守屋 年史～

★2) 生物観察データの紹介 市民発表者（公募）15分ずつ

1. 高井正明 個人

・吉野川河口で確認されたコクガンとビロードキンクロに関すること。

2. 三宅 武 日本野鳥の会徳島

・ハウロクシギの生態と吉野川河口での確認状況。

3. 笠井 正 日本野鳥の会徳島

・2012～2014年度に吉野川河口干潟で確認された希少種に関すること。

・フラッグ付きのシギ・チドリ類が確認された場所に関すること。

4. 井口利枝子 とくしま自然観察の会

・阿波しらさぎ大橋の建設に伴うシギ・チドリ類の生息場所選択への影響評価に関する考察

5. 渡辺雅子 沖洲海浜を楽しむ会

・ルイスハンミョウの回廊と幼虫の生息環境。

6. 藤永知子 吉野川ラムサルネットワーク

・吉野川河口がラムサル条約潜在候補地に選定されていること。

3) 生物観察データの活用

■とくしま自然観察の会から解説

四国横断自動車道吉野川渡河橋は、まさに吉野川が海と出会う最河口に、高速道路の橋を作るというものであり、しかも、阿波しらさぎ大橋（2012年完成）とは、わずか1.7kmしか離れていない場所です。この高速道路橋計画は、阿波しらさぎ大橋の環境影響が「軽微であった」という、徳島県が示した調査結果を根拠に、環境への影響が少ないと予測されています。

それに対して、とくしま自然観察の会は、阿波しらさぎ大橋のモニタリング調査結果を詳細に分析した上で「影響は認められる」との見解をまとめ、

「阿波しらさぎ大橋建設に伴うシギ・チドリ類の生息場所選択への影響評価に関する考察」と題するレポート

をNEXCO西日本に提出し、12月15日に発表します。

阿波しらさぎ大橋の建設だけでもシギ・チドリ類の移動が妨げられている可能性があったことを考えれば、新たに、吉野川の入口をちょうど塞いでしまう橋の計画は、渡り鳥だけではなく、広大な景観や、生物多様性にとって致命的な影響を与える心配があります。

レポート『阿波しらすぎ大橋建設に伴う シギ・チドリ類の生息場所選択への影響評価に関する考察』

要旨

四国横断自動車道吉野川渡河部建設予定地点約 1.7km 上流部で建設された阿波しらすぎ大橋建設にかかる環境モニタリング調査報告の結果を用い、橋建設に伴うシギ・チドリ類への影響調査を再評価した。架橋建設期間を前期と後期に分け、干潟に飛来するシギ・チドリ類の個体数を比較したところ、橋の上流域の干潟の飛来数のみが有意に減少していた。また橋建設箇所の移動個体数を比較したところ、前期と後期とで橋（および建設予定ルート）を通過する個体数が有意に減少していた。このことから、架橋工事の期間中に、橋の上流域で採餌環境が悪化したか、移動を阻害する要因が生じたと考えられる。同調査報告では底生生物相に顕著な変化は無かったことから、橋の建設によりシギ・チドリ類の移動が阻害されたことが要因であると示唆された。橋のような人工構造物はシギ・チドリ類の行動圏に影響を与えることから、近接して橋を建設することは、吉野川河口の渡来数を減少させる可能性があり、四国横断自動車道単独の影響評価に留まらず、周囲の人工構造物との関連性、複合的な影響評価を行うべきである。

（とくしま自然観察の会 世話人 井口利枝子）

レポートは下記 URL でご覧ください。

<http://shiomane.ki.info/wp/wp-content/uploads/2014/12/77910e355c2ebb7fe79ee846e97dd4902.pdf>